

輸出事業計画

※申請者名：日本泉酒造株式会社、品目：日本酒

1. 輸出における現状と課題

【現状】

日本酒の国内出荷量は下降傾向にあり2021年には過去最低にまで落ち込んでいる。今後の成人人口の減少を考えると、日本酒の出荷量はさらに減少傾向になることが予測される。一方で、日本酒の輸出額は、2022年まで13年連続で増加し、474億円まで伸びており、和食及び伝統的酒造りのユネスコ無形文化遺産の登録などにより、今度も海外の日本酒市場は拡大すると予測される。

【課題】

- ①物価の格差や円安により渡航費や展示会出展料に係る費用が高額である。
- ②輸出額向上のため、現地マーケティング及びプロモーション活動における新規市場の獲得や販路の拡大が必要である。
- ③海外での商品の認知度を拡大させる必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

①現地プロモーション活動の経費削減

JETROのサンプルショールームや海外展示会における岐阜県ブース、海外展示会の出展に係る補助事業を活用する。

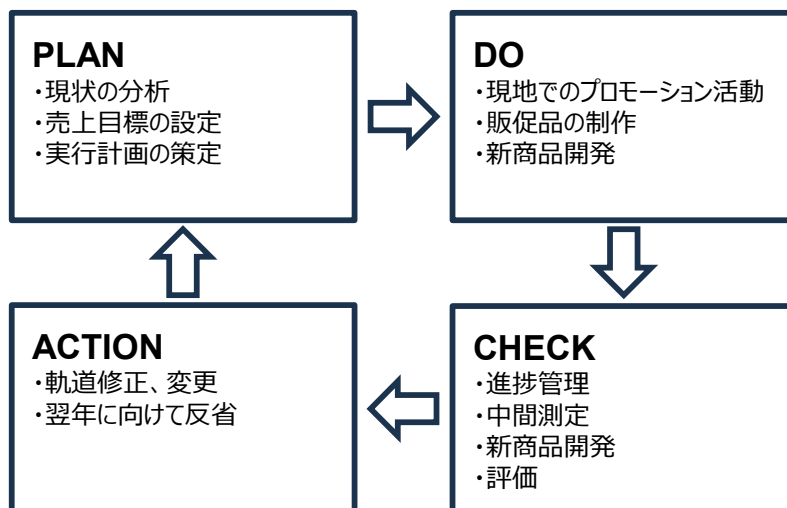
②販路の拡大

販路が拡大している国を中心に現地でのプロモーション活動や展示会に出展をする。

③海外での認知度の拡大

輸出先国の言語に対応したチラシ・ポスター・前掛けなどの販促品を作成して、海外で商品のブランディングを行う。また、日本酒や日本文化の歴史・文化について関心のある人をターゲットとして、SNSなどのデジタルマーケティングをすることによって海外での認知拡大を図る。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（2023年度）	目標年（2027年度）
輸出額（千円）	958	5402
輸出量（L）	479	2701
輸出先国	アメリカ・香港・スペイン・中国・台湾・シンガポール	